

コニカミルタ株式会社

2018年（平成30年）3月期 第1四半期 決算説明会

主な質問と回答

日 時： 2017年7月28日（金）17:00 ～ 18:00

場 所： 野村コンファレンスプラザ日本橋

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください

【全社業績に関して】

Q. 固定資産の流動化は特殊なスキームなのでしょうか、また2Q以降も出てくるものなのでしょうか？

A. 1Qに実施したのはセール&リースバックというスキームです。本件については、前回中計時から、グローバルなパートナーを選定して、世界で850カ所ほどある当社の拠点をデータベース化しました。それにより、賃借料の削減を推進してきましたが、今回中計では、これを加速させて、利益貢献、費用削減につなげるとというのが基本的な考え方です。そういう考え方の中で、資産の流動化、スリム化という施策は2Q以降も継続します。

【事業セグメントに関して】

Q. オフィスのノンハードが前年比でマイナスになっていますが、その要因と今後の見通しを教えてください。

A. 欧州については1枚あたりのクリック単価、販売台数ともに減少した影響が出ましたが、販売戦略の転換を進めているので、改善する見込みです。北米もグローバルに事業を展開されているお客様の大型案件を獲得したという朗報があり、北米のノンハードも上向くと考えています。

Q. ヘルスケアに関して、1Qは5億円の営業赤字でしたが、今後はどういう要因で改善していくのかについて教えてください。

A. 1Qは中国でのX線フィルムの減少のインパクトが大きかったのですが、医療ITのお客様への実装がスローであったことも影響しました。2Qはこれを加速させて、売上計上につながる検収を増やします。DRの市場は伸びています。2Q以降は大手パートナーとの販売協業の成果がプラスになると見えています。超音波製品は米国の販売体制見直しの成果を出します。

【業績予想に関して】

Q. Ambry Genetics 社の買収は期初の業績予想に織り込んでいたのでしょうか？

A. 買収費用は織り込み済みでした。利益の方は下期から連結効果が出る一方で、無形資産の償却負担もあり、今期への寄与は限定的と想定しています。

以上